

「データの地産地消」分科会

【提案者：名古屋大学 浦田研究室】

目指す姿

- AIカメラの通行量データなど地域内で収集しているデータが地域で利活用される「データの地産地消」の取り組みが地域全体に波及している。

分科会での活動内容

活動①：ワークショップの開催によるデータ利活用の普及

「ICTを活用したまちづくりワークショップ」の開催を通じ、まちづくりにおけるデータの利活用の有効性を参加者が共有し、地域全体でのデータ利活用に向けた機運を高める。

活動②：データ利活用のモデルケースに関する情報共有

商店での人流データ分析に基づく営業時間の見直しやアルバイトのシフト調整などデータ利活用の成功事例の横展開を図る。

活動③：人流データの新たな活用方法の検討

人流を予測し結果をカレンダー形式で出力するツールの開発や、民間事業者におけるアプリやサービスへの展開などオープンデータとしての人流データの活用促進を図る。

活動④：データを可視化・分析するスキルの習得支援

高校授業でのデータ分析勉強会の開催や、分析目的に応じて的確にデータを可視化するツールの提供など、多くに市民や事業者がデータを利用活用しやすい環境を整備する。

活動⑤：AIカメラ配置計画策定に向けた協議

地域全体でAIカメラで得られる通行量データを地域全体で活用していくため、AIカメラの設置拡大に向けた議論を進める。

活動イメージ

市や地元事業者との連携により、データ分析に基づく施策検討を行う等、「データの地産地消」を実践！

2020.4～FA（駅前、古い町並）+ 行神橋、江名子川、⇒ 現在4箇所

2021.4～名大まちなかAIカメラ徐々に設置拡充 ⇒ 9箇所

合計13台

人流・交通量データの収集

NES AIカメラ(FA)
人数+方向+年齢性別

名大 AIカメラ
人数+車両台数+方向



①オープンデータとしての公開



③データ分析に基づく飲食店の売上向上



②観光アプリやデータ分析ツールの開発



④産学官民連携ワークショップの開催

地元でデータ収集 ⇒ 地元のみんなでデータを使えるように！ ⇒ 地域社会DXへ

グーグル・ビジネス・プロフィール（GBP）活用促進分科会

【提案者：名古屋大学 浦田研究室】

目指す姿

- 市内の多くの飲食店や商店がGBPを活用して自店舗情報を可視化している。
- 旅行者が店舗の正確で詳細な情報を知ることができるようになっている。
- 公共施設においても施設の正確な情報が市民に伝えられるようになっている。

分科会での活動内容

活動①：GBPの仕組みやメリットを紹介する勉強会の開催

GBP登録マニュアルの作成・公開のほか、各店舗の活用レベルに応じた勉強会の開催などにより、GBPに対する地域事業者の関心を高めるとともに、地域全体でGBP活用に向けた気運を高めていく。

活動②：各店舗のGBPの活用状況に応じた伴走支援

GBP登録がまだの店舗に対し、地元高校生主体による個店のオーナー登録支援や基礎的なGBP勉強会の開催を行う。（他分科会と連携）

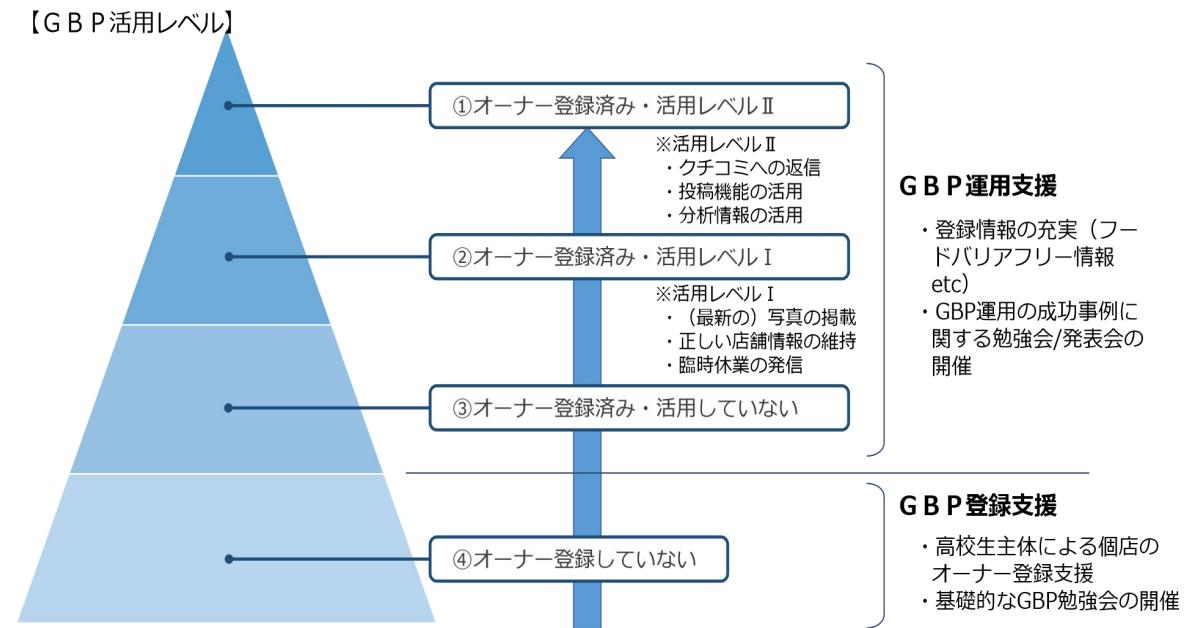
GBP登録が完了している店舗については、各店舗の活用状況に応じて、登録情報の充実に向けた支援やGBP運用の成功事例を横展開を図るなど活用レベルの向上に取り組む。

活動③：市の施設におけるGBPの登録・活用促進

市有施設においても、正確な施設情報の登録を進めるとともに、GBPを活用した情報発信の充実を図る。

活動イメージ

事業者のGBPの登録状況や活用レベルに応じた段階的な支援を実施



高校生デジタルサポート分科会

【提案者：名古屋大学 浦田研究室】

目指す姿

- 地元の高校生のデジタルスキルが向上している。
- 地域のデジタル実装や市民のデジタルリテラシーの向上に地元高校生が主体的に貢献している。

分科会での活動内容

活動①：「高校生デジタルサロン」の開催

市民や事業者からのデジタルに関するさまざまな相談に高校生が応じる「高校生デジタルサロン」を開催し、地域でのデジタル活用をサポートする。

活動②：授業でのデジタル勉強会の開催

大学院生・大学生によるデジタル勉強会を通じ、高校生がデジタルスキルを身に着けるとともに、地域課題への理解を深める。

活動③：市内の商店や飲食店等のGBP利活用支援

GBP登録がまだの店舗に対し、地元高校生主体による個店のオーナー登録支援や基礎的なGBP勉強会の開催を行う。（他分科会と連携）

活動④：データを可視化・分析するスキルの習得支援

センサによる施設来訪者のカウントなどデータ収集・分析が課題と感じている市内事業者への支援を行う。

活動⑤：市内事業者等のデータ分析支援

民間や行政の施策について、高校生の視点からデータ分析を行うなど、地域の課題解決に貢献する。

活動イメージ

- 2019年の実証実験後、2020年にAIカメラによる通行量データの収集を開始
- 市や地元事業者との連携によってデータ分析に基づく施策検討を行う等、“データの地産地消”を実践！

通行量データの収集（2020年～現在）



商店街に13台のAIカメラを設置

通行量データの活用（2021年～現在）



2023年～飛騨高山高校との連携を開始！

飛騨高山高校 大学院生・大学生による データ分析＆利活用勉強会

- 高校生が地域課題を知り、大学生からデータサイエンスを学ぶことで、地元の将来を身近に感じる（担い手育成へ）



研究室主催 市職員・商工観光事業者向け デジタル勉強会＆ワークショップ

- デジタルスキルを身に着けた高校生が市職員や地元事業者のデジタル活用をサポート（地域課題解決）



“データ地産地消”による観光まちづくり
大学生と地元高校生が地域DXを推進！

データ駆動型観光推進分科会

【提案者：一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会】

目指す姿

- ・観光需要予測などのデータが可視化され、予測に基づいた経営の効率化のための環境が整っている。
- ・市内事業者の多くにおいて、データを活用し食品ロスの解消や効率的な人員配置につながっている。

分科会での活動内容

活動①：人流・需要を予測できるアプリ等の開発と公開

人流データ・宿泊状況データなどを基に特定日の人流・需要予測できるAIの開発と育成を行う。

活動②：事業者に対する需要予測の効果的な活用方法の検討

予測データの主に営業面における活用方法をまとめ、試験利用事業者と共有する。

活動③：需要予測の有用性の検証

試験利用事業者との情報共有およびアンケートを通じ有用性について検証する。

※観光庁「観光DX推進による地域活性化モデル実証事業」

活動イメージ

